

趣意書

今や日本は沈痛なる苦悶と壯烈なる歡喜とに世をあげて奔命してゐる。沈痛なる苦悶とは何ぞや明治以來誤りたる西歐追隨思想の生み出したる産業であり政治であり教育である。

特に我が産業界に於ける西歐模倣のあとを省みよ。其處に輕薄なる階級鬭争と感傷的なる人道主義とあるのみ。資本家は資本の奴隸となつて他を忘れ、労働者は利己的權利の主張あつて産業の重大使命を自覺せず、たゞ資本主義搾取と、利己的鬭争のみに走つて後に果して何が残るか。刻下の日本に於て、國際的關係複雑化して益々重大なる使命を持つものは、日本産業の世界的使命である。此の際醇乎として醇なる日本精神に立脚し、和衷協力産業の興隆なくして國民の永福は何處にありや。

茲に於て、吾等は決然起つて我國独自の建國の本義に遡り、資本家たるも労働者たるもを問はず、等しく産業人たる自覺の下に義相協び志を相同しうする士と相結び、國家産業の興隆に萬幅の奉公を致さんとするものである。思ふに國家を疎外して産業の發展充實を期するは難く、産業の發展充實なくして國家の興隆も國民の福利も庶幾することには出來ぬ。

されば産業人たる同志は、吾等の勤勞と血誠により、祖國日本の使命實現の上に、一大覺悟を以て猛進せんとする者である。時は熟せり。起てよ労働者、覺めよ資本家、集れ同志。

日本主義労働運動の眞剣なる活動によつてこそ、我が國産業界は一新されん。この曉鐘は今や全日本の産業界に響き且り我等をして壯烈なる歡喜に勇奮せしむる所以のものである。

綱領

- 一、我等は雄大にして尊嚴なる建國の理想に従ひ情義を重じ和衷協力して識見の涵養徳操の確立技術の進歩を圖り以て國家産業の發達を期す
- 一、我等は強固なる結束により相互の福利を増進せしめ着實有效なる方法を以て労働條件の維持改善を圖り社會共存共榮の實績を擧げんことを期す
- 一、我等は我國独自の國情と國民性とに立脚し純日本の社會の發展を期し國家を無視し私利私闘を逞しうする徒輩に對しては斷乎として膺懲を期す

日本主義労働組合結成準備委員會